

令和7年度 食品アクセス緊急対策事業 地域協議会 あらため、 東峰村のこうなったらいいなをみんなで語る会 活動報告 vol.2

令和7年6月5日（木）、福岡県 香春町に視察研修へ行ってきました

視察場所として・・・：福岡県香春町『コミュニティセンター採 do 所』

：福岡県香春町『KAWALABO』

参加者として・・・委員9名、事務局5名の14名での参加

コミュニティセンター採 do 所について

福岡県香春町の概要（R7.5月現在）

人 口：9,897人（うち、4,254人が65歳以上）

世 帯：5,307世帯

高齢化率：42.9%（福岡県全体の高齢化率は、28.2%）



採銅所住民による、未来の採銅所のための協議会

採銅所地域は、高齢化率 46.9%と高齢化率も香春町全体よりも高い。また、人口減少等に伴い、病院や診療所だけでなく、小中学校も、コンビニもなくなるといった、地域課題に直面。そこで、令和元年から住民参加型のワークショップを実施し、令和3年3月に採銅所地域運営組織準備会を発足。その後、令和4年1月に採銅所地域コミュニティ協議会を設立し、住民自身が考え、運営をされている。



採銅所地域コミュニティ協議会
事務局長
宮原 絵理さん



レンタルスペースとフリースペースの使い分け



おもしろい取組み×住民への思い



委員の感想より（一部抜粋）

- ・子ども、大人、男女、高齢者、全てがつながれる中心的存在だと感じた！
- ・地域住民で協議して、みんなで地域を作っている。
- ・楽しめることを考えて、自由に活動できるアイデアがずばりだった！
- ・無理はしないこと、幅広い年齢層の意見を聞く
- ・地域の方々の意見・希望を聞いて、必要なことは事業化！
- ・自主性がとても高い。他人事ではなく自分ごとに。そのようにさせる声かけ、雰囲気づくりが大切。
- ・住民が運営活動を楽しみながら作っている。
- ・地域の拠点として、機能的に使用されている。 など

「KAWALABO」について



KAWALABO の概要

香春町立小中学校跡地利活用計画にて、こども・子育て支援施設（幼稚園、保育所、子育てセンター）の集積地であったことに留意し、複合的な施設活用を視野に民間活力を活かした施設。以前は、香春小学校として、地域で親しまれていた。現在は、株式会社クリエイティブジャパンが指定管理を行ない、地域住民のつどいの場としての役割も担っている。

小学校跡地に、いままでと変わらず、 こどもたちの声を響かせたい

KAWALABOとは、『KAWARA（香春）+ LABORATORY（創作室など）』をかけた施設名。これには、香春町の『子育て支援』や『地域活性化』に関する、さまざまな活動の創作・創造拠点施設となるよう願いが込められている。香春町 かわらの中心でかわらの良さを知る ぐるぐる支援で示されている、「子育て支援」や「子どもたちが香春町の良さを知ること」、「香春町に住むきっかけづくり」など循環した流れを具現化しようとしている施設でもある。

館内には、廃校活用の利点を活かしたレンタル教室や子ども達が勉強することができるみんなの部屋があるだけでなく、駄菓子屋やカワラボホールといったフリースペースやサテライトオフィスも併設している。



廃校ならではの、レンタル教室への活用



子ども達が集まりたくする工夫



みんなが集える、集いたくなる場所づくり

委員の感想より（一部抜粋）

- ・廃校をうまく活用している
- ・住民が気軽に使えるスペースがあってよかった
- ・企業も入り、同じ目標に向かって、取り組んでいて、うまくいっているなと思いました。一階の保育所等が入ってからの運営も楽しみ。
- ・福祉とビジネスを両立している
- ・広場やチャレンジショップ等も予定されていて、親子で楽しめる施設。
- ・住民が気軽に使えるスペースがあったので良かった。
- ・キッズスクール等、子ども向けのイベントに多く取り組んでいた。
- ・地域の人々の集まる場所はやはり必要。 など